



舞台をはじめ会場内では終始イベントが催され、獅子舞や太鼓、餅つきや炭坑節など、日本文化を演出するプログラムに彩られました。

また会えた感動を胸に

国際車いすテニス大会

選手交歓会

Welcome Party
in Fukuchi

国 際車いすテニス大会の選手を歓迎する国際交歓会が5月22日に福智町金田体育館で開催されました。場内での催しや多彩なステージから福智町ならではの文化と歓迎の心が、今年も国を越えて伝わりました。



700人が集まり一体となった空間は歓迎ムード一色。外国人選手たちも子どもたちのサインやコミュニケーションに笑顔で応えました。



町長日誌

▼先日、学生時代の大半を過ごした東京田川学舎という寮の同窓会に出席した。これは、東京の大学で学ぶ田川地区出席者のために設けられた寮で、埼玉県入間郡福岡町(現在は市になっている)にあった。町のほぼ中心部を、私鉄東武東上線池袋を発着駅とする)が走っており、未来に向けて力強い活力を感じさせる。まっしろそんな印象を抱かせる程、町中に活気が溢れていた。最寄りの「上福岡駅」の左右には、巨大な公団住宅が林立していて、まるで将来の発展を誇示しているかのようだった。少し前置きが長くなったが、そろそろ本題にふれてみたいと思う。人は、好むと好まざるとにかかわらず、他者のかかわりの中で生きていかなければならないと言われている。幸い、社会への順応性や対応力は、家庭や学校生活等を通して知らず知らずのうちに身に付いていくものではあるが、もっと違う形で体験を重ねることによって、人間としての幅を広げることができるのではないだろうか

か▼私も、前述の東京田川学舎(2人部屋で28人定員)で生活したが、何にも代え難い大きな財産となっており、いろんな意味でパワーを与えてもらっている。寝食を共にする寮生活では、さまざまなきっかけがあり、まさに人生の縮図だと言ってもいいくらいだ。時には、人情の機微に触れることもあったし、多少の自己犠牲を強いられることもあった。そんな一つ一つの積み重ねが、人なかを生き抜く力を育ててくれたのだと思う▼残念ながら、疾うの昔に田川学舎は閉鎖されたが、今のような時代だからこそ、こうした共同生活の場は必要なのではないか。田川地区の関係者と意見交換をしてみたいと思っている。

浦田 弘二